

眼鏡や拡大鏡のレンズを 供給する専門メーカー

納期
相談
コスト
相談
オンリー
ワン技術
メイドイン
ジャパン
試作可
小ロット
量産
対応



同社が生産する金型（上）と各種製品（下）

業務内容 多様な技術を駆使し 地場産業を継承

多様な技術を駆使し眼鏡や拡大鏡（ルーペ）用のレンズを供給している。主力視力補正用レンズやルーペは、材料となる板ガラスを製品形状に成形し、研磨加工している。昭和63年には樹脂レンズの市場拡大を受け、射出成形機を導入。樹脂製の拡大鏡レンズの生産を始めた。現在では、ガラスレンズと樹脂レンズを合わせて3万個程度出荷している。

かつて大阪市生野区はレンズ加工を地場産業として多くの企業が集積したが、現在では海外製品の台頭などで大半が廃業。数少ない専門メーカーとして多様な顧客ニーズに応えている。

強み 小ロット多品種生産、 高精度化への取り組みで発展

ガラスレンズ加工では工程ごとに機械操作と検査を繰り返す一貫生産を構築した。小回りのきく小規模製造工場として、小ロット多品種生産や試作ニーズに応え短納期を実現している。樹脂レンズはレンズ成形用に改良した精密射出成形機により量的生産に対応。樹脂表面のキズ対策にクリアハードコート加工を同一工場内で施し、虫眼鏡など樹脂製の各種拡大鏡を生産している。

技術開発 製品精度の向上に鏡より 細かい金型表面粗度を実現

樹脂レンズは成形機に導入する金型表面の状態が、製品の良否を左右する。その



段階的にレンズを研磨していく



樹脂レンズは量産で応えている

今後の展望 レンズ製作で培った技術を 新たな分野へ展開

ため金型の補修および表面の精度向上が課題になるが、同社では金型表面を精密研磨する技術を確立。表面粒度の異なる研磨材を駆使し段階的に仕上げていく。現在では鏡の表面よりも細かな表面粗度を実現。

池田良和代表は「長年の経験から1万分の1mm程度の微細な表面粗さ精度までは磨ける」と胸を張る。また樹脂は冷えると素材が縮むため肉厚製品の生産には向いていないとされているが、加工技術の開発で肉厚製品の加工も可能にしている。

池田代表は「当社が撤退すると業容を引き継ぐ企業がない。高度なガラス研磨や樹脂レンズの製造技術が国内から消えてしまう可能性もある」と危惧する。そのためにも「各種レンズ製作で培った技術をベースに、新たな分野で事業成長を図り、安定した受注や取引先の新規開拓を進めていく」考え。

現状、同社には大学や試験所から反射鏡の実証試験などガラスレンズに関しての調査や開発依頼が届くなど、多様な分野の研究開発や製品化において同社技術の重要性を実証している。また、レンズ成形金型の精密研磨技術を生かした分野での事業展開も視野に入れる。

当社の歴史



昭和45年、「世の中のものを生ではっきりと見て欲しい」という思いから創業しました。同55年には高速研磨機を導入し拡大鏡レンズの製作をはじめ、同63年からは射出成形機の導入とともにレンズ成形用金型を精密研磨する技術を確立し、樹脂レンズの量産化にも応えています。

代表 池田 良和さん

<http://ikeyoshi.localinfo.jp/>

主な事業内容

拡大鏡レンズ、眼鏡レンズ、
光学レンズの製造・研磨加工

主な取引先(納入先)

拡大鏡・虫眼鏡メーカー、
眼鏡・サングラスメーカーなど

●住所

〒544-0012
大阪市生野区
箕西3-11-6

●TEL

06-6757-4527

●FAX

06-6757-0325

●創業

昭和45年4月

●設立

昭和45年4月

●資本金

—

●従業員

4名